



脂質生化学研究 Circular

2024

日本脂質生化学会
(JCBL)

日本脂質生化学研究 サーキュラー 2024

目 次

第 66 回日本脂質生化学会のお知らせ		1
令和 6 年度日本脂質生化学会 総会・幹事会のお知らせ		5
第 66 回日本脂質生化学会 発表演題の募集		6
第 66 回日本脂質生化学会を開催するにあたって	三浦 進司	8
第 65 回日本脂質生化学会を開催して	杉本 幸彦	10
第 65 回日本脂質生化学会に参加して	滝田 紗恵	12
第 63 回国際脂質生物学会議（63rd ICBL）に参加して	望月 茅可	14
第 64 回国際脂質生物学会議(ICBL)のご案内	横溝 岳彦	17
高密度リポタンパク質の機能解明と応用	奥平 桂一郎	18
臨床検査医学の生理活性脂質への展開	蔵野 信	20
細胞膜分子の 1 分子・超解像観察による可視化解析	鈴木 健一	22
赤痢アメーバの含硫脂質・セラミド代謝の研究	見市 文香	24
会の活動状況		26
賛助会員		31
会則		32
学会事務の取り扱い内容と連絡先		34

第 66 回 日本脂質生化学会のお知らせ

期日：2024 年（令和 6 年）6 月 6 日（木）、7 日（金）

会場：静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」

〒424-0823 静岡市清水区島崎町 223

TEL：054-355-3111

<https://terra.net/>

JR 清水駅下車、みなと口（東口）から徒歩 5 分

静岡鉄道 新清水駅下車、徒歩 7 分

※会場へのアクセスについては、「会場のご案内」をご覧ください。

実行委員長：三浦進司（静岡県立大学食品栄養科学部 栄養化学研究室）

〒422-8523 静岡市駿河区谷田 52-1

TEL：054-264-5559

FAX：054-264-5559

Email：jcb12024@u-shizuoka-ken.ac.jp

大会ホームページ：<https://sites.google.com/view/jcb12024>

発表形式：

・一般演題発表 A 発表 10 分＋討論 5 分＝15 分

・一般演題発表 B 発表 7 分＋討論 3 分＝10 分（ショートトーク）

※一般発表演題 B は、ショートトーク枠での発表となりますので、必ずしも希望する演題領域を反映した枠になるとは限りません。

※発表はすべて液晶プロジェクターを用います。

特別講演

Lipid Code と病態シグナチュア ～Lipid Medicine にむけて～

島野 仁 先生（筑波大学 教授）

シンポジウム

1. 脂質多様性の分子機序と生物学的意義
2. 脂質を見る・捉える革新的な新技術

ランチョンセミナー

1. 株式会社島津製作所
2. 株式会社エービー・サイエックス

演題登録期間：2024年1月22日（月）～2月16日（金）

演題要旨送付締切：2024年2月23日（金）

事前参加登録期間：2024年1月22日（月）～4月5日（金）

（5月下旬に参加証を送付予定）

名誉会員、賛助会員の皆様には別途ご案内申し上げます。

学会参加登録費：事前参加登録：一般 6,000 円 学生 3,000 円
当日参加登録：一般 7,000 円 学生 4,000 円
（非会員の方は、要旨集代金を申し受けます。）

懇親会： 日時：2024年6月6日（木）18時半頃より
会場：静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」7階
懇親会参加費：一般 8,000 円、学生 4,000 円

事前参加登録と懇親会の事前申し込みは以下の要領にてお願いします。

事前参加登録の方法

昨年同様、登録フォームの入力と銀行振込みで事前参加登録と懇親会の事前申し込み手続きをお願いいたします。申し込みは下記の要領で、①②の順にお願いします。

参加登録費、懇親会費はできるだけ事前にお振り込みください。なお、お支払いいただいた参加登録費、懇親会費の払い戻しは致しかねますので、ご了承ください。

- ① 大会ホームページ（<https://sites.google.com/view/jcbl2024>）の「参加登録」より、必要事項（氏名、ご所属、一般/学生の別、発表の有無、懇親会参加希望の有無）を Google Form にご記入の上、送信してください。
- ② 申し込みを受け付けましたら、参加登録費の振込みに関するご案内をメールにてお送りいたします。メールの指示に従って、参加登録費の振り込みをお願いします。

宿泊のご案内

交通、宿泊についての学会からの手配はございません。

JR 静岡駅あるいは JR 清水駅の徒歩圏に宿泊施設がございます。

第 66 回 日本脂質生化学会
特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーのお知らせ

特別講演

「Lipid Code と病態シグナチュア ～Lipid Medicine にむけて～」

講演者：島野 仁

(筑波大学 教授)

座長：三浦 進司 (静岡県立大学)

シンポジウム 1

「脂質多様性の分子機序と生物学的意義」

オーガナイザー：青木 淳賢 (東大)、進藤 英雄 (国際医療センター)

予定演者：稲垣 奈都子 (東大)、佐藤 友紀 (静岡県大)、河野 望 (東大)、
桑田 浩 (昭和大)、杉本 幸彦 (熊本大)

シンポジウム 2

「脂質を見る・捉える革新的な新技術」

オーガナイザー：西村 多喜 (東大)、土谷 正樹 (静岡県大)

予定演者：鬨 孝介 (理研)、土谷正樹 (静岡県大)、内之宮 祥平 (九大)、
石綿 整 (量子生命科学研)、西村 多喜 (東大)、佐伯 恭範 (シンガポール南洋理工大)

ランチョンセミナー

1. 株式会社島津製作所
2. 株式会社エービー・サイエックス

日程・演者等につきましては、今後変更の可能性があります。最新の情報は、大会のホームページに掲載いたします。

第 66 回 日本脂質生化学会 会場のご案内

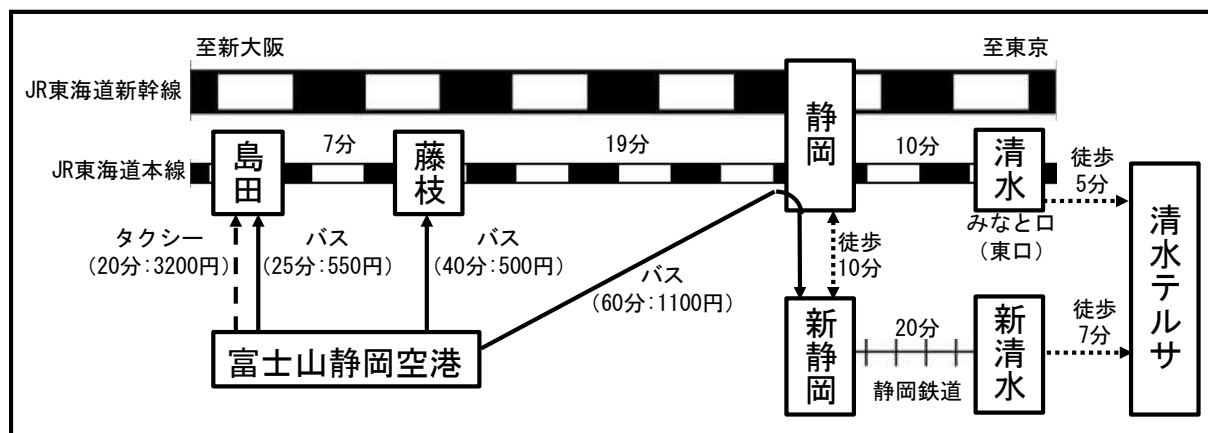
大会会場：静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」

〒424-0823 静岡市清水区島崎町 223

TEL : 054-355-3111

<https://terra.net/>

- ・ JR 清水駅みなと口（東口）下車、徒歩 5 分
- ・ 静岡鉄道 新清水駅下車、徒歩 7 分



会場周辺拡大図



令和 6 年度 日本脂質生化学会総会のお知らせ

上記の総会を令和 6 年 6 月 6 日（木）夕刻、一般演題終了後（開催時刻・会場は改めてご案内差し上げます）開催いたします。ご出席賜りたく存じます。

会長 梅田 眞郷

- 議題
1. 令和 5 年度事業報告
 2. 令和 5 年度決算報告ならびに監査報告
 3. 令和 6 年度事業計画ならびに予算案
 4. その他

令和 6 年度 日本脂質生化学会幹事会のお知らせ

上記の幹事会を令和 6 年 6 月 6 日（木）昼頃に開催いたします（開催時刻・会場は改めてご案内差し上げます）。幹事・名誉会員の皆様のご出席をお願いいたします。

会長 梅田 眞郷

- 議題
1. 令和 6 年度日本脂質生化学会総会への提案事項の検討
 2. その他

第 66 回日本脂質生化学会 発表演題の募集

○演題の申し込みについて

本年度も演題登録は「大学医療情報ネットワーク(Umin)の ELBIS システム」を用いて、インターネット上から行います。連絡用に電子メールのアドレスが必要ですので、各自ご用意下さい。また印刷用の講演要旨は、電子メールの添付ファイルで下記事務局(jcbl.org@gmail.com)までお送りください。PDF ファイルと Word ファイルの両方を送付して頂きます。

一般講演の筆頭演者は本学会の会員に限ります。未入会の方は必ず令和 6 年 4 月末までに入会手続きを完了してください。

演題登録の開始は 2024 年 1 月 22 日(月)、締め切りは 2024 年 2 月 16 日(金)です。講演要旨送付の締め切りは 2024 年 2 月 23 日(金)です。

○ 演題登録の仕方

- 1) 次ページの作成要領に従って講演要旨を作成して下さい。「要旨(600 字以内)」は演題登録の際に必要ですので、ワープロファイルまたはテキストファイルをご用意下さい。
- 2) 第 66 回日本脂質生化学会のホームページ(<https://sites.google.com/view/jcbl-2024>)にアクセスし、「演題申込」を選択して下さい。
- 3) 与えられた指示に従って演題登録を行って下さい。必須項目を空欄のままにしておきますと、登録ができませんのでご注意ください。登録内容は締め切りまで変更可能ですが、登録の際に入力したパスワードが必要になりますので、必ずメモを取って下さい。一般発表は 15 分発表(討論含む)と、若手や新規分野の発表を促すために 10 分発表(ショートトーク、討論含む)を設けます。
- 4) 登録終了後、抄録登録[受付番号]というタイトルの電子メールが発表代表者に届きますので必ず保存しておいて下さい。
- 5) インターネットが使用できない方、登録ができない方は、講演要旨をお送り頂く前に、以下の講演要旨送付先までご連絡下さい。

○ 講演要旨送付先 (PDF ファイルと Word ファイルの両方をお送り下さい)

E-mail アドレス : jcbl.org@gmail.com

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学 大学院薬学系研究科 衛生化学

日本脂質生化学会 講演要旨受付 (担当 : 河野 望)

Tel: 03-5841-1076

○ 学会についてのお問い合わせ

E-mail : jcbl2024@u-shizuoka-ken.ac.jp

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1

静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養化学研究室内

第66回日本脂質生化学会事務局 (三浦、佐藤)

Tel: 054-264-5559, 5558; Fax: 054-264-5559

第 66 回日本脂質生化学会 講演要旨作成要領

1. テンプレートを使用する場合、第 66 回日本脂質生化学会のホームページ (<https://sites.google.com/view/jcbl-2024>) から「講演要旨作成テンプレート」をダウンロードし、マイクロソフト Word で作成して下さい。テンプレート上で入力すれば、字体や大きさが統一されます。
2. テンプレートを使用されない場合は以下の要領で作成して下さい。
 - * A4 サイズ、縦 260 mm×横 170 mm の大きさに作製して下さい。原則として字の大きさは 12 ポイント、フォントは「MS 明朝」、「Times New Roman」をご使用下さい。要旨集印刷の際、4/5 程度に縮小されて印刷されます。ページ番号は付けなくて下さい。
 - * 演題名：全角 8 文字目から書き始め、2 行以内に納めて下さい。
 - * 氏名・所属：演題名より 1 行空けて下さい。全角 8 文字目から氏名を書き、所属は適当な略記を用いて（ ）内に入れて下さい。発表者（または連絡著者）の電子メールアドレスを記載して下さい。
 - * 要旨：氏名・所属より 1 行空け、全角 1 文字空けて書き始めて下さい。全体を枠で囲んで下さい。
 - * 本文：要旨より 2 行空けて下さい。
3. 講演要旨の作成にあたって
 - * 1 ページから 6 ページの範囲で作成して下さい。
 - * 日本語か英語で作成して下さい。
 - * 講演要旨により、日本脂質生化学会会則第 2 条に定められた本会の目的に沿わないと判断される演題は、発表をお断りすることがあります。
 - * 講演要旨の著作権は本学会に帰属することをご了解ください。
 - * 講演要旨集は従来の紙媒体以外に、WEB に掲載することを検討しております。WEB 掲載について予めご了解ください。
 - * 講演要旨の作成にあたっては、著作権、知的財産権、及び二重投稿と解釈されることへの懸念等についてご留意下さい。
4. 講演要旨の送付にあたって
 - * 講演要旨の PDF ファイルおよび Word ファイルを、前ページの「講演要旨送付先」まで電子メールの添付書類としてお送り下さい。ファイル名は「抄録登録[受付番号]」としてください。
 - * 電子メールの「件名」の欄に、演題登録後に届いた「抄録登録[受付番号]」を明記してください。

講演要旨送付の締め切りは 2024 年 2 月 23 日(金)です。

なお、WEB からの演題登録（2 月 16 日（金）締め切り）を忘れずに行って下さい。

第 66 回 日本脂質生化学会を開催するにあたって

実行委員長

静岡県立大学 食品栄養科学部

三浦 進司

2024 年 6 月 6 日（木）、7 日（金）の両日、第 66 回日本脂質生化学会研究集会を静岡市清水区の静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」で開催いたします。本会開催にあたり、会員の皆様の多大なご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。歴史ある日本脂質生化学会を主催するのはたいへん光栄なことであり、その重責を感じております。前回に続き、対面開催とし、脂質研究の魅力・醍醐味を直接感じながら、熱くご討論いただけるような会にしたいと考えています。

学会のホームページで確認したところ、1971 年に舟橋三郎先生と松本亮先生が第 13 回研究集会を開催されて以来、静岡での開催は 53 年ぶりとなります。大学図書館にあった「脂質生化学研究 Vol.13」には、静岡県立中央図書館を会場に、一講演あたり 25 分で 53 演題が掲載されていました。また、手書きのプログラム、会場案内図、講演要旨が、時の流れを感じさせました。その一方で、演題にはスフィンゴ脂質、糖脂質、過酸化脂質、レチノール結合タンパク質、コレステロール生合成についての研究発表や、脂質多様性についての内容もあり、現在おこなわれている多くの研究の礎となっていることを実感しました。

さて、静岡市は、徳川家康公が人生の約 3 分の 1 を過ごされた地であり、幼少時代に教育を受けたとされる臨済寺、大御所時代に居城となった駿府城、家康公をお祀りした久能山東照宮などゆかりの地を多数有します。美しい富士山と駿河湾、温暖な気候や美味しい食事など、家康公が静岡を愛された理由を実感していただけることと存じます。会場は静岡市の玄関口である JR 静岡駅から東海道線で東へ 3 駅の JR 清水駅の近くです。会場から徒歩圏内に「清水魚市場 河岸の市」があり、新鮮な魚介類や海産物が販売されているほか、食事処もございます。また、お天気にもよりますが、会場からは、世界文化遺産「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」を構成する富士山、三保の松原を始め、清水港、伊豆半島がご覧いただけます。セッションの合間にどうぞ静岡をご満喫ください。

第 66 回研究集会の特別講演とシンポジウムは「脂質多様性」をキーワードに準備しています。特別講演は、島野仁先生（筑波大学教授）が「Lipid Code と病態シグナチュア ～Lipid Medicine にむけて～」と題してご講演くださいます。脂肪酸伸長酵素による脂質多様性の形成が生体機能や疾患発症にどのように関与するのかなどをご紹介します。また、初日の午後と 2 日目の午前にシンポジウム 1 と 2 を開催します。シンポジウム 1 は青木淳賢先生（東京大学）と進藤英雄先生（国立国際医療研究センター）に「脂質多様性の分子機序と生物学的意義」というタイトルで企画いただきました。脂質多様性の形成に深く関与するアシル基転移酵素、アシル CoA 合成酵素を中心に、これまでの研究成果とこれからの展望についてご紹介いただきます。シンポジウム 2 は、梅田会長から若手研究者をオーガナイザーにしたシンポジウムをご提案いただきましたので、新進気鋭の若手研究者である西村多喜先生（東京大学）と土谷正樹先生（静岡県立大学）に「脂質を見る・捉える革新的な新技術」というタイトルで企画いただきました。抽出物の放射線/質量分析などの生化学的脂質解析とは違った異分野手法（化学・物理）や、新発想を積極的に取り入れた新しい脂質プローブ・バイオセンサーを用いて、新たな観点から脂質を見よう・捉えようとする新技術について先駆的な研究をご紹介します。一般演題は 15 分枠の口頭発表を基本としますが、10 分枠のショートトークも設定します。若手および学生を対象とした優秀発表賞を設ける予定ですので、皆さんの積極的な発表をお待ちしております。また、株式会社島津製作所と株式会社エービー・サイエックスのご支援を得て、二つのランチョンセミナー開催を予定しています。

冒頭でも述べましたが、我が国の脂質生化学研究は、先達からの長い研究の歴史を背景にして、常に世界をリードしており、数多くの発見と成果を挙げています。第 66 回研究集会においても、「未来の研究の礎」になるような研究成果を発表・議論いただいて、本研究集会が脂質生化学研究のさらなる発展に寄与できればと考えております。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 65 回日本脂質生化学会を開催して

熊本大学生命科学研究部 杉本 幸彦

2023 年 6 月 8 日（木）、9 日（金）の二日間にわたって、熊本城に隣接した KKR ホテル熊本において第 65 回日本脂質生化学会を開催いたしました。本学会もコロナ禍の影響を受け、2020 年は誌上開催、2021 年は WEB 開催、2022 年は懇親会なしでの対面開催と大きな変更を余儀なくされました。今回、満を持して懇親会も併設したフル規格での学会を 4 年ぶりに開催させていただきました。おかげさまで本学会の参加者は 250 名、総発表数は 116 演題にのぼり、地方都市開催としてはかつてないほど多くの方にご参加いただき、三つの会場ではいずれも活発な議論が繰り広げられ、脂質に関する熱い想いが伝わる会となりました。

本大会の特別講演では、現会長で京都大学名誉教授・ホロバイオ株式会社の梅田眞郷先生に「脂質はすごい！-脂質研究のこれから-」という題でご講演いただきました。ご講演では、地球温暖化により海洋生物の生態系が影響を受け、 $\omega 3$ 脂肪酸の枯渇が危惧されるとの衝撃的な話に始まり、多様な生物が脂質を巧みに利用して圧や温度をセンスするしくみを壮大なスケールでお話いただき、その内容はたいへん興味深く、ワクワクしながら拝聴いたしました。会場の先生方も同じ思いだったようで、特別講演にも関わらず多くの質問があり議論が絶えなかったことが印象的でした。

本大会の初日のシンポジウムは、「脂質多様性の生物学とリポドームアトラス」というタイトルで、青木淳賢先生（東京大学）と有田誠先生（慶應義塾大学・理研）にオーガナイズいただき、質量イメージング等、最先端技術を駆使して初めて見えてきた脂質の新しい生物機能に関して、若手研究者を含む 7 名の演者にご紹介いただきました。脂質生物学が新しいステージに進んだことを実感しました。また 2 日目のシンポジウムは、「生体膜脂質組成が規定するタンパク質動態・生理機能」というタイトルで、末次志郎先生（奈良先端大学）と田口友彦先生（東北大学）にオーガナイザーを務めていただきました。タンパク質の活動の場であるオルガネラ膜の脂質不均一性や特定脂質の役割を解明した研究成果を 6 名の演者にご発表いただきました。1 分子イメージングや高解像度顕微鏡、オルガネラ特異プローブの登場により、オルガネラ膜や脂質ドメインの新たな機能が次々と解き明かされていくのを目の当たりにして、細胞生物学の教科書が塗り替えられる日も近いことを実感しました。

初日のランチョンセミナーでは島津製作所のご後援により、大阪大学・松田史生先

生に「LCMS-9030 を用いた出芽酵母のノンターゲットリピドミクス」、二日目のランチョンセミナーではエービー・サイエックスのご後援により SCIEX 事業戦略推進本部・建田潮先生に「LC-MS/MS でここまで解析！脂質分析の世界を変える ZenoTOF7600 の二つの技術・ZenoSWATH と電子励起解離」という題目でご講演いただきました。

懇親会は、初日の総会終了後に、第一・第二会場の敷居を取り払う形で大宴会場を設営し、着席の形で 160 名の方々にご参加いただきました。4 年ぶりの懇親会でしたので楽しんでいただきたく、熊本の海の幸・山の幸、地酒や米焼酎をできうる限り多数取り揃えましたが、人気の大皿や銘酒はまたたく間に空となり、ご満足頂けたことと思います。参加者にお話を伺ってみると、新たな共同研究がまとまったり、次の職場が決まったりと、懇親会はロビー活動の場として重要であることを、空白の 3 年間を経て、改めて再認識しました。

6 月にもかかわらず季節外れの台風が直前に九州を掠めた影響で初日は雨天でしたが、心配された豪雨や強風、交通の混乱もなく、主催者としては胸をなで下ろしました。懇親会終了時には雨も止んで、二日目には快晴に転じました。参加者の中には、昼休みに熊本城の散策や、熊本ラーメンのお店に走った猛者もいらっしゃいました。学会のみならず、熊本の食や文化もご堪能いただけたのではないかと思います。

最後に、みなさまのご協力のおかげで無事に大会を終了することができ、改めて厚く御礼申し上げます。特別講演を行っていただきました梅田会長、シンポジウムのオーガナイザー、シンポジスト、プログラム作成に関わっていただいた本会幹事・会員の先生方、大会にご参加いただいた皆様、そして協賛いただいた全ての企業関係者に、この場をお借りして深甚の謝意を表します。



左：第65回大会の立看板。右上：左から順に梅田会長、清水先生、新井前会長、三浦先生(第66回実行委員長)。右下：学会スタッフ集合写真。前列中央が杉本。

第 65 回日本脂質生化学会に参加して

静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 栄養化学研究室
博士前期課程 1 年 滝田 紗恵

2023 年 6 月 8、9 日に KKR ホテル熊本で開催された第 65 回日本脂質生化学会に参加させていただきました。本会は私にとって初めての日本脂質生化学会であると同時に、人生初の学会での口頭発表でした。そのため、前日までは発表に対する不安や緊張、未知の世界に飛び込むような高揚感が混ざった、良い意味でドキドキした気持ちでいました。しかし、会場に着くと、その空気に圧倒された私は自分の発表に対する不安感でいっぱいになってしまいました。加えて私のセッションは学会初日の午前中であつたため、不安と焦りを感じているとすぐに自分の発表順番が回ってきてしまいました。

私は「LPGAT1/LPLAT7 による骨格筋中リン脂質のアシル基リモデリング機構の解明と LPGAT1/LPLAT7 欠損が骨格筋機能に及ぼす影響」という演題で発表させていただきました。脂質の専門家、さらに共同研究をさせていただいている先生の前での発表であつたため、不安と緊張で押しつぶされそうでした。そんな中、拙いながらも自分の伝えたいことを話せたことは自信に繋がつたと感じております。また、何人かの先生にはご質問をいただきとても嬉しかったと同時に、今後の研究に発展するような貴重なご意見もいただくことができました。しかし、私の勉強不足もあり折角の討論の場でありながら上手く議論することができず、発表終了後にはもっと有意義な時間にできたのではないかと反省したことも良い経験となりました。

また、特別公演「脂質はすごい！ー脂質研究のこれからー」は、脂質研究はいろいろな可能性を秘めているのだと感じさせてくれるものでした。ビジネスを念頭に置きながら研究を進め、今まで結びつかなかった環境と脂質を結び付け「地球を顧客」にした脂質研究は、非常に印象に残る興味深い内容であり、あつという間の 40 分間でした。

この学会を通して、「脂質研究はまだまだ熱い」という言葉が非常に印象深かったです。その言葉を裏付けるかのように、学会中は白熱した議論を目の当たりにすることができました。脂質研究に携わるすべての方が熱意をもって研究に取り組む姿勢を肌で感じることができ、非常に充実した学会参加になりました。

第 66 回の本学会は、令和 6 年 6 月 6 日に私が在住する静岡で行われます。そんなゾロ目の年に学会運営に携わらせていただくので、成功に向けて尽力したいと意気込んでいます。私も研究成果を皆様にご報告できるよう熱意をもって研究に励みたいと思います。

最後に、収まりつつあるとはいえ依然先の見えないコロナ禍において対面での開催にご尽力賜りました実行委員長の杉本幸彦先生をはじめ、大会運営に関わられたすべての皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第 63 回国際脂質生物科学会（63rd ICBL）に参加して

東京大学大学院 医学系研究科 博士課程 3 年

望月 茅可

2023 年 10 月 2 日～5 日の 4 日間、スペイン・パルマ デ マヨルカ島で開催された 63rd edition of the International Conference on the Bioscience of Lipids (ICBL) に参加しました。JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING-GX) 高度スキル養成プログラムの一つである「国際会議派遣プログラム」に採択され、学生の身分ながら初めて国際学会に参加発表させていただきました。開催地は「地中海の楽園」と呼ばれる有数の観光地であり、ベストシーズンではないものの、観光客の方々が多く見られました。学会会場は Auditòrium de Palma と呼ばれる地中海を一望できる海岸沿いのコンベンションセンターで行われました。



会場周辺の海岸沿いの景色



学会会場の様子

今大会は、シンポジウムが 24 演題、ポスター発表 88 演題、参加者 180 名（うち日本人が 12 名）でした。本大会テーマは、「Advances in Lipid Research: from bench to bedside」であり、リピドーム解析の新技术と臨床応用の最先端の研究について拝聴することができました。

大会のテーマの一つである “Lipid in immunology” は、自身の研究分野であり、特に興味を持った講演は Valladolid 大学 (IBGM) の María Ángeles Balboa 先生の “STAT-1-Controlled Lipin-2 Is a Master Regulator of the Antiviral and Anti-Inflammatory Responses to Interferon” です。ホスファチジン酸ホスファターゼ酵素ファミリーである LPIN2 の変異は、自己炎症性疾患の Majeed 症候群と関連しており、STAT-1 を介して IFN-1 β の産生を制御していることを示されました。また、TLR3 を介したシグナル伝達と、最終的に NLRP3 インフラマソームを活性化する活性酸素の発生によりウイルス感染での炎症の制御に関わることなどを報告され、脂質と免疫を組み合わせた研究のアプローチ方法が参考になりました。

た。また“Spatial Lipidomics”では、Toronto 大学の Arash Zarrine-Afsar 先生の“Integrated morphometric and molecular classification of central nervous system cancers using a unified platform with picosecond infrared laser mass spectrometry”や、Basque 大学の José A. Fernández González 先生の“Lipid Imaging Mass Spectrometry: Challenges, Limitations and Achievements”に興味を持ちました。ピコ秒赤外レーザー質量分析法(PIRL-MS)による組織分子量測定により、早期に癌の種類を鑑別できるようになったことや、脂質イメージング質量分析法 (LIMS) を用いて、組織に病態に関連する脂質を直接マッピングすることで、疾患の早期発見・診断を可能にすることを報告されました。脂質研究を大学・企業・病院と連携することで、研究を発展させ社会へ還元することの重要性を再確認できました。

さらに本大会では、自身の研究対象であるホスホリパーゼ A₂(PLA₂) に関する講演が行われました。1 日目に Edward A. Dennis 先生による “Van Deenen Lecture”が行われました。Dennis 先生は、PLA₂ 研究の創始期から PLA₂ の構造や機能などの研究を牽引してきた大御所であり、大変貴重なご講演を拝聴できたことを喜ばしく思いました。2 日目の午後には村上誠教授の招待講演が行われ、各 PLA₂ ファミリーの最新の研究について発表されました。多岐にわたる PLA₂ 群が、それぞれの組織・細胞で生理活性脂質を介して生体機能の調整に重要な役割を持つ酵素であることを再認識しました。



ポスター発表
(小野さん(左)と筆者(右))

私は2日目のポスターセッションにて、「Group XIIA secreted phospholipase A₂ promotes Th17 cell differentiation and psoriasis by mobilizing bioactive lysophospholipids」というタイトルで発表させていただきました。国際学会での発表は初めてだったので、発表前は非常に緊張しましたが、SPRING-GX プログラムでの英語ポスター発表の経験が生かされました。日本の先生方だけでなく、海外の先生方がポスター発表を聴きにきて下さり、他分野の視点から研究のアドバイスをいただき、今後の研究の参考になりました。海外の先生に研究内容が素晴らしいと褒めていただき、自信になり研究の励みになりました。

学会3日目の夕方から、「SOCIALEVENTs」にて、各国の先生方と一緒に世界遺産のパルマ大聖堂を見学し、周辺の街並みを散策しました。ツアーガイドが付き、大聖堂の建築様式と歴史について説明していただきました。大聖堂はゴシック様式の教会で、中央に万華鏡のようなステンドグラスの窓が見られ、「光の大聖堂」の名の通り、非常に美しく幻想的な光景でした。その後、市内からバスで30分ぐらいの Finca Son Termes にて Galla Dinner が開催されましたが、筆者は連

日の緊張と季節外れの猛暑のため極度の体調不良に陥り、残念ながら欠席してしまいました。機会があれば次回は参加したいと思いました。



パルマ大聖堂



教会内のステンドグラス

最終日は、午前中に講演、そして午後に授賞式があり、昨年まで当研究室（村上研究室）に在籍していた小野喬さんが「Patatin-like phospholipase PNPLA6 regulates retinal homeostasis by regulating choline availability through phospholipid turnover」という演題で Best Poster Award を受賞いたしました。（残念ながら、筆者らはフライト時間の関係で授賞式は不参加だったため、横溝岳彦先生が授賞式の写真を撮影し、賞状を届けていただきました。後日研究棟で記念撮影を行いました。）私も今後、国際学会でポスター・口頭発表できるように、より一層研究に邁進し、英語表現を磨いていこうと思いました。



Best Poster Award 表彰状



小野さん(右) と村上教授(左)

ご指導いただいた東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター健康医学部門の村上誠教授、研究指導いただいた東京大学大学院薬学系研究科衛生化学教室の青木淳賢教授、かずさ DNA 研究所オミックス医科学研究室の遠藤裕介先生、研究のアドバイスをいただいた東京大学名誉教授の新井洋由先生、そして学会期間中にお世話になった全ての先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第 64 回国際脂質生物学会議(ICBL)のご案内

順天堂大学医学部生化学第一講座 横溝岳彦

第 63 回国際脂質生物学会議(ICBL)は、スペイン Fundació Institut d'Investigació Sanitària Illes Balears (IdISBa)の Gwendolyn Barceló-Coblijn 教授を実行委員長として、2023 年 10 月 2-5 日に、地中海の島、スペインのパルマ・デ・マヨルカで開催されました。マヨルカ島は中世の雰囲気が残る美しい街でした。ICBL には 180 名の参加があり、例年以上にレベルの高い活発な学会だったと感じました。参加した望月芽可さんの報告が本サーキュラーに掲載されていますので、ぜひお読みください。

第 64 回の ICBL は、2024 年 10 月 15-18 日に台湾の台北で開催されます。大会長の Dr. Hsinyu Lee 先生(右)は既にかかなりの準備をされているようです。Van Deenen Lecture は、Howard Hughes Medical Institute Janelia Research Campus の Jennifer Lippincott-Schwartz 先生の予定です。また、故宮博物館で予定されているエクスカーションや Gala dinner も大変魅力的です。



ICBL のホームページ <https://www.icbl.info/>

第 64 回 ICBL の案内 <https://www.icbl2024.tw/>

なお、今後の ICBL の開催予定は以下の通りです。

第 64 回 ICBL 2024 年 10 月 15-18 日

台北(台湾)

第 65 回 ICBL 2025 年 9 月 16-19 または 23-26 日

インスブルック(オーストリア)

第 66 回 ICBL 日程未定

ドーハ(カタール)

高密度リポタンパク質の機能解明と応用

大阪医科薬科大学薬学部 衛生化学研究室 奥平 桂一郎

この度は、日本脂質生化学会の幹事にご推薦いただき、誠に光栄に存じます。微力ではございますが学会の発展に貢献できるよう精進して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。僭越ではございますが、ご挨拶を兼ねて、これまでの経歴と研究内容について簡単に紹介させていただきます。

私は 1999 年に京都大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科の製剤機能解析学研究室にて半田哲郎先生のもとで、脂質とリポタンパク質についての研究を始めました。物理化学系の研究室で、リポタンパク質に対するアポリポタンパク質の結合実験などを行なっておりましたが、博士後期課程では当時名古屋市立大学医学部におられた横山信治先生からご指導いただき、生化学的な実験も含めた高密度リポタンパク質 (HDL) の研究を進めることになりました。半田先生には私が研究者の道を選ぶきっかけを与えて頂き、横山先生には研究者として歩むために必要な心構えと考え方を教わりました。私がいま脂質や HDL という研究テーマを掲げて仕事ができているのは、この二人の恩師のおかげです。

2003 年から米国マサチューセッツ総合病院の Mason Freeman 先生のもとで、ABC トランスポーター (ABCA1) の HDL 形成機能と相互作用タンパク質についての研究を進めました。私はポスドクとして初めての海外でしたが、分子生物学の知識や技術を学びながら、脂質輸送タンパク質の働きや制御メカニズムなど、新たな研究分野に触れる貴重な機会を得ることができました。当時 ABCA1 の研究を進めていた同僚と協力しながら、ABCA1 遺伝子変異体の解析や結合タンパク質の働きに興味を持ち、気づけばあっという間に 2 年半が経っていました。その後、当時東京にあった国立医薬品食品衛生研究所 (現在は川崎市に移転) に赴任することとなり、そこでは HDL や ABCA1 の研究だけでなく、がんやケミカルバイオロジーの研究に関わることになりました。そして、2014 年には徳島大学薬学部に移り、2020 年に現職に至ります。それぞれの場所で異なる研究テーマと出会い取り組む中で、脂質の研究から一時的に遠ざかることもありました。それでも HDL や脂質に関しては、「もう少し研究を進めればさらに面白いことが分かりそう」という感覚がずっと抜けないままで、完全に諦めきれない思いで細々と続けていたことが今につながっていると思います。

こうして約 20 年かけて、国内外の大学や研究所、病院をめぐり、(特に意図したわけでもなく) 一周してまた故郷である大阪に戻ってくることになりましたが、これまでを振り返ると、いつも脂質をきっかけとして人とのつながりが生まれ、道が開けていったと感じています。現在は研究室を立ち上げ、ようやく腰を落ち着けて長いスパンで研究を育てられる環境が整いました。今後は HDL の機能とその応用に関する研究を継続するとともに、本学会の先生方から学ばせていただき、新しい分野へ積極的に挑戦する気持ちを失うことなく、治療や創薬につながるような新たな発見を目指したいと考えています。浅学非才の身ではありますが、本学会の発展のために努力する所存ですので、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

臨床検査医学の生理活性脂質への展開

東京大学大学院医学系研究科 内科学専攻病態診断医学講座
臨床病態検査医学分野／東京大学医学部附属病院 検査部
蔵野 信

この度は、日本脂質生化学会の幹事に推挙いただきまして、大変光栄に感じるとともに、身の引き締まる思いであります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、2004 年に東京大学医学部医学科を卒業後、3 年間の臨床研修を市中病院で行ったのち、東京大学大学院医学系研究科にて代謝栄養学の臨床および研究につき研鑽を積み増した。脂質に関しましては、もともとは、より臨床に近い、脂質異常症、リポ蛋白代謝について研究を行い、「肝臓における Niemann-Pick C1 Like 1 Protein (NPC1L1) のリポ蛋白・糖代謝における役割についての検討」という内容にて博士号を取得しました。

大学院卒業後、私の前任の矢富裕先生に誘われ、2011 年に現在の講座に着任し、生理活性脂質の研究を始めました。もともとリポ蛋白、特に HDL 代謝について研究をしておりましたので、生理活性脂質のうち、HDL に偏って分布するスフィンゴシン 1-リン酸 (S1P) の研究からスタートしました。ちょうど 2011 年に HDL 上のマイナーアポ蛋白であるアポ蛋白 M (ApoM) が S1P の運搬体であることが報告され、ApoM に着目して S1P の代謝、生理機能、疾患病態への関与について研究をしてきました。ApoM による S1P 代謝の調節、ApoM 含有リポ蛋白の代謝による S1P 濃度の制御、ApoM による S1P 作用の修飾、ApoM/S1P の糖尿病、糖尿病性腎症、IgA 腎症、敗血症に対する保護的な作用などについて研究を進めてきました。

また、現東京大学薬学部青木淳賢先生の教室のご協力・ご指導の下、質量分析計を用いて、臨床検体（血液、尿、髄液、組織）の脂質（リゾリン脂質、ジアシルリン脂質、スフィンゴ脂質、エイコサノイド類）を解析してきました。臨床検査医学の特徴の一つに、横断的な分野を研究するということが挙げられます。私は、急性冠症候群、糖尿病、腎疾患、COVID-19 をはじめとする感染症、肝疾患、各種がん（大腸がん、肝がん、泌尿器科がん、食道がん、胃がん、皮膚科がん）、疼痛疾患、脳神経内科疾患、アルツハイマー病といった幅広い分野の疾患につい

て、診療科の先生方のご協力の下、研究を行ってきました。その結果、これらの疾患では、ダイナミックに生理活性脂質濃度（あるいは含有量）が変動していることを見出してきました。もともと内科では、特定の病態、臓器というよりは、幅広い疾患を対象とする一般内科に興味を持ち、研修をしておりましたので、このような全身を対象に研究ができてきたということは、自分にとっては、大変喜ばしいことであります。

さて、私は、2023 年度から、前任である師匠の矢富裕先生の後を継ぎ、現在の講座を主宰するようになりました。当講座は名前の通り、臨床検査医学の技術を持って、疾患病態を解明し、さらには、実際の現場で使える検査法を構築・社会実装することを目的としております。矢富先生の下、リゾホスファチジン酸の産生酵素であるオートタキシンの肝線維化マーカーとしての有用性を確立することを目指した臨床性能試験を実施し、保険収載された検査を創出することができたことは、大変貴重な経験となりました。研究レベルでは、ある脂質がある病態によって確かに変動するという事実を証明することが求められますが、臨床導入するためには、その測定法の正確性・精確性を証明すること、および実際の様々な背景を持つ患者さんにおいて、本当にその測定法が臨床検査として有用であるか、ということを実証することが求められます。臨床検査医学の講座を主宰する立場として、オートタキシンのように実際の臨床検査の現場へ生理活性脂質およびその関連蛋白質を導入し、患者さんへ本学会の先生方のご研究の成果を届けることに貢献したいと強く思っております。私自身は、現在、質量分析計を用いた疼痛マーカーとしてのリゾホスファチジルコリン測定の実用化に力を入れています。

最後になりましたが、臨床検査医学は、基礎と臨床の境界医学としての特徴、実践的な学問であるため、産学連携研究が盛んであるという特徴があります。是非とも、本学会の研究者の先生方および企業の方と生理活性脂質関連検査を共創していきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

細胞膜分子の1分子・超解像観察による可視化解析

岐阜大学糖鎖生命コア研究所/国立がん研究センター研究所 鈴木健一

この度は、日本脂質生化学会の新幹事にご推挙いただきまして、身に余る光栄です。心より感謝申し上げます。ご挨拶と自己紹介を兼ねて、これまでの略歴と研究をご紹介します。

私は、京都大学工学部高分子科学科を卒業後、同修士課程を修了し、合成・生物化学専攻博士課程に進学しました。その間、砂本順三先生の研究室に所属し、リポソームからの脂質の転移によって細胞膜が変形してちぎれる過程で、細胞膜から放出された小胞画分中に含まれている膜タンパク質の形状を調べ、小胞への膜タンパク質の分配機構を研究していました。その機構解明のために、膜タンパク質と膜骨格の局在を可視化できれば一目瞭然だと考え、色々な分野の文献を読む中で、1粒子追跡の研究を知りました。90年代初頭から半ばの期間は、金コロイド粒子で標識した細胞膜中の1分子を追跡したり、光ピンセット法を使って1分子を操作する研究が始まりつつある時代でした。文献を読んでいくにつれ、「これはすばらしい技術だ!」と感激し、自分もこのような研究がしてみたいと考えるようになりました。そこで、学位取得に目途が立ったところで、1粒子追跡のパイオニアであるデューク大学メディカルセンターの Michael Sheetz 先生(キネシンの発見などで2012年ラスカー賞受賞)に手紙を書き、博士研究員として受け入れていただきました。光ピンセット法を使って、細胞膜分子と膜骨格タンパク質との相互作用の研究を2年半くらい行い、論文を2報執筆しました。直感にまかせて、知り合いでもなかった Mike に連絡を取って研究分野を変えることは、いささか猪突猛進でしたが、以降に、生細胞内分子のイメージングを研究の中心に据えられたのを考えると、そう決断して良かったと思っています。

帰国後、ERATO 楠見膜組織能プロジェクトの研究員として、蛍光1分子イメージングを始めました。当時(2000年前後)、細胞膜上での蛍光1分子イメージングは、まだ始まったばかりの技術でしたが、特に2色同時1分子観察で分子同士の相互作用や会合体形成を初めて見た際には、ワクワク感があり楽しかったです。その後、JST さきがけ専任研究者、京都大学物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)准教授を経て、2017年に岐阜大学生命の鎖統合研究センター

(現在は糖鎖生命コア研究所)に研究室を持つに至りました。この間、一貫して、細胞膜上での1分子観察を行い、ラフト構造や膜タンパク質の会合、シグナル伝達などを研究してきました。さらに岐阜大学に異動後は、1分子イメージングと超解像顕微鏡観察を高速で同時に行い、生細胞膜上での脂質ドメイン形成やシグナル伝達機構を中心に研究しております。

また、2016年からリポクオリティの公募班に4年間参加させていただきました。領域内で始めた共同研究は今でも継続しており、今後も発展させていくことができそうです。また、最近では、細胞外小胞の膜動態、すなわち、細胞外小胞がどのように標的細胞に結合し、取り込まれ、機能しているのかを研究しています。上記の通り、学生時代に細胞膜とリポソームの相互作用がテーマでしたので、何だか元に戻ったような感じがしますが、新しい顕微鏡観察技術を開発して取り組んでいます。また、今年度から、国立がん研究センター研究所の先端バイオイメージング研究分野としても研究室を運営し、発がんに関連したシグナル伝達機構を研究しております。現在、こちらでは、ラボメンバーを募集しております。スタッフ、学生さんともに募集しておりますので、ご興味のある方は、ご連絡していただければ幸いです。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

赤痢アメーバの含硫脂質・セラミド代謝の研究

長崎大学熱帯医学研究所 見市文香

この度は日本脂質生化学会の幹事にご推薦いただき、誠に光栄に存じます。今後の日本脂質生化学会の発展に尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。自己紹介として、これまでの研究履歴を紹介させていただきます。

私は東京大学薬学部出身で、単細胞の寄生原虫を研究題材とした生化学的な研究を続けてきました。キーワードは、寄生原虫・ミトコンドリア・脂質代謝です。東京大学大学院修士・博士課程では、北潔教授の研究室にて、熱帯熱マラリア原虫のミトコンドリア呼吸鎖の研究、脂質代謝の研究を行い、学位を取得しました。その後、群馬大学にて野崎智義教授（現東京大学教授）の研究室に所属、赤痢アメーバのミトコンドリアの研究を開始いたしました。佐賀大学での11年間、そして長崎大学熱帯医学研究所に着任後も、寄生原虫である赤痢アメーバを研究対象として、脂質代謝(含硫脂質・セラミド・グリセロリン脂質・脂肪酸)、休眠体（シスト）形成の分子機構の全容解明を目指した研究を進めています。

赤痢アメーバは単細胞の寄生虫で、栄養体期とシスト期があり、ヒトに感染した場合、アメーバ運動する栄養体の増殖に伴い各種臨床症状（赤痢症状、肝膿瘍など）を発症します。宿主体内環境に長い年月をかけて適応しており（寄生適応）、代謝経路を簡略化させたり、逆に複雑化させたりしている場合もあり特殊な代謝経路を持っております。その赤痢アメーバの脂質代謝解析に取り組むきっかけは、赤痢アメーバの極端に退化したミトコンドリアの主たる機能の1つが硫酸活性化であること、最終代謝産物が含硫脂質であることを見出したことです。赤痢アメーバ自身が合成する含硫脂質としてコレステロール硫酸、**fatty alcohol disulfates** を同定、その機能解析を開始しました。大きな転機となったのは、新学術領域リポクオリティの公募班として採択していただいたことです。知り合いが1人もいない班会議に参加するのは胃が痛いばかりか、到着してすぐブユに十数か所刺され腫れあがってしまい、山奥のホテルで泣きたい気持ちにさえなりながらの参加でした。それでも、これまで自分なりに進めてきた赤痢アメーバの独特な代謝である含硫脂質代謝を紹介できたのはとても嬉しく、また発表後、有田誠先生とお話させて頂き、共同研究を開始させていただくことも出来ました。有田先生、池田先生、津川先生に頂く網羅解析データは多くの新規知

見に溢れており、赤痢アメーバの脂質代謝解析が大きく進むことになりました。そしてこれまでに、コレステロール硫酸が、シスト形成過程においてアメーバの細胞を球形化すること、同時に超長鎖ジヒドロセラミド（炭素数 26 以上）の合成を誘導、超長鎖ジヒドロセラミドがシスト細胞に蓄積することで、細胞膜の透過性が低下することを明らかにしました。現在は、コレステロール硫酸が細胞を球形化するその分子機構の解明、またジヒドロセラミド合成誘導および細胞膜の透過性低下の分子機構の解明へと発展させています。

私たちの研究室は長崎大学熱帯医学研究所にあります。浦上天主堂の鐘の音が響く、坂の多い街です。美しい景色を一日の終わりに眺め、今日の実験結果をラボメンバーと議論する、現実にはなかなか出来ていませんが、今後も理想は高く、寄生原虫の脂質代謝研究を進めていきたいと考えております。これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

会の活動状況

1 第 65 回日本脂質生化学会・研究集会の開催

実行委員長 : 熊本大学薬学部 杉本 幸彦 教授
日時 : 令和 5 年 6 月 8 日 (木)、9 日 (金)
場所 : KKR ホテル熊本
演題数 : 特別講演 1、シンポジウム 2、ランチョンセミナー 2、一般演題 95

2 令和 5 年度日本脂質生化学会・幹事会、総会の開催

令和 5 年 6 月 8 日 (木) に幹事会と総会が、第 3 会場 (有明・不知火) にて開催された。

総会次第

梅田眞郷会長の挨拶の後、以下の議事が進行された。

(1) 令和 4 年度事業ならびに決算報告

令和 4 年度の事業報告ならびに決算報告がなされ了承された。

(2) 令和 5 年度事業計画ならびに予算案

令和 5 年度事業計画ならびに予算案の報告がなされ了承された。

(3) 役員・幹事の選出および名誉会員の推薦

- ・ 令和 5 年 12 月 31 日任期終了予定の幹事の再任が承認された。
(令和 6 年 1 月 1 日～令和 9 年 12 月 31 日迄) (氏名は後述)
- ・ 以下 4 名が新幹事に推薦され、承認された。
奥平圭一郎先生 (大阪薬科大)、蔵野信先生 (東京大学附属病院)、
鈴木健一先生 (岐阜大学)、見市文香先生 (長崎大学)
(令和 6 年 1 月 1 日～令和 9 年 12 月 31 日迄)
- ・ 以下 4 名が名誉会員に推薦され、承認された。
市川厚先生、伊藤俊洋先生、小林哲幸先生、山下哲先生

(4) 令和 7 年度 (第 67 回) 学会の実行委員長の選出

実行委員長に横溝 岳彦 教授 (順天堂大学大学院医学研究科) が承認された。

3 令和 5 年度日本脂質生化学会・第 2 回幹事会

日時 : 令和 5 年 12 月 18 日 (木) 14:00-16:00
場所 : 東京大学薬学部 総合研究棟 4 階 E4 セミナー室

議事

- (1) 令和 5 年度事業報告、決算案の審議がなされ、了承された。決算案は巻末を参照されたい。

令和 5 年度事業報告

会員数 598 名 (令和 5 年 10 月 31 日)

(名誉会員 34 名、正会員 450 名、学生会員 59 名、賛助会員 9 件)

新入会 52 名 (正会員 32 名、学生会員 20 名)

退会 49 名 (正会員 37 名、学生会員 12 名、賛助会員 1 件)

会費納入率 77.21% (令和 4 年度 12 月末実績 77.0 %)

賛助会員 9 社 (24 口) (令和 4 年実績 10 社 29 口、令和 3 年実績 9 社 28 口)

役員	会長	梅田真郷	(令和 6 年 12 月 31 日迄)
	庶務幹事	青木淳賢	(同上)
	会計幹事	村上 誠	(同上)
	会計監査 幹事	和泉孝志	(同上)
		(令和 5 年度事業計画の項参照)	

事業

- イ) 令和 5 年度 (第 65 回) 学会
- ロ) 脂質生化学研究 65 巻の発行 (本文 305 頁)
- ハ) 脂質生化学研究 Circular 2023 の発行 (本文 44 頁)
- ニ) 総会及び幹事会の開催

(2) 令和 5 年度事業計画、予算案の審議がなされ、了承された。

令和 5 年度事業計画

役員	会長	梅田真郷	(令和 6 年 12 月 31 日迄)
	庶務幹事	青木淳賢	(同上)
	会計幹事	村上 誠	(同上)
	会計監査	和泉孝志	(同上)

幹事

(任期 令和 6 年 12 月 31 日迄)

新井洋由、池田和貴、板部洋之、小林俊秀、瀬藤光利、高橋吉孝、供田 洋、仲川清隆、松澤佑次、山本 圭

(任期 令和 7 年 12 月 31 日迄)

厚味巖一、池ノ内順一、市 育代、伊藤俊樹、伊東 信、今井浩孝、今井博之、大城太一、岡崎俊朗、岡本安雄、沖野 望、笠間健嗣、唐澤 健、木原章雄、櫛 泰典、坂根郁夫、末次志郎、菅谷純子、杉本幸彦、鈴木 聡、中谷良人、中村浩之、原俊太郎、原 雄二、深澤征義、松本幸次、村上 誠、矢富 裕、山下 純、山本登志子、横山和明

(任期 令和 8 年 12 月 31 日迄)

有田 誠、有田正規、石井 聡、岩渕和久、植田和光、上田夏生、榎本和生、小川 順、菊田安至、斎藤芳郎、佐々木雄彦、佐藤隆一郎、白井康仁、進藤英雄、杉本博之、杉山英子、瀬川勝盛、田口友彦、徳村 彰、中津 史、中村元直、花田賢太郎、松田純子、三浦進司、村田幸久、室田佳恵子、森田真也、山崎 晶、山田健一、横溝岳彦、横山知永子

(任期 令和 9 年 12 月 31 日迄)

青木淳賢、和泉孝志、井ノ口仁一、梅田真郷、奥平桂一郎、京ヶ島守、久下 理、蔵野信、島野 仁、鈴木健一、田中 進、田中 保、田村 康、中村和生、中村由和、本家孝一、松坂 賢、見市文香

名誉会員

五十嵐靖之、池澤宏郎、市川 厚、伊藤俊洋、井上圭三、岩森正男、大島美恵子、川口昭彦、鬼頭 誠、古賀洋介、小林哲幸、斎藤国彦、清水孝雄、鈴木明身、鈴木邦彦、脊山洋右、瀧 孝雄、田口 良、多久和陽、武富 保、竹縄忠臣、谷口直之、玉井洋一、

中野益男、西島正弘、野沢義則、野島庄七、飯田静夫、平林義雄、深見希代子、牧田 章、
宮澤陽夫、矢野郁也、山下 哲、山田晃弘、横山信治、吉本谷博、和久敬蔵

賛助会員:9 社 (計 24 口)

(5 口) 小野薬品工業 (株)、佐藤製薬 (株)、ホロバイオ (株)

(3 口) (株) ナールスコーポレーション

(2 口) 雪印メグミルク (株)

(1 口) 大塚製薬工場 (株)、(株) ダイセル、備前化成 (株)、(株) 極洋

事業

イ) 令和 6 年度 (第 66 回) 学会

実行委員長 : 静岡県立大学食品栄養科学部 三浦 進司 教授

日時 : 令和 6 年 6 月 6 日 (木)、7 日 (金)

場所 : 清水テルサ (静岡県静岡市清水区島崎町 223)

ロ) 脂質生化学研究 66 巻発行

演題募集 (Circular2024 の発行時に) 1 月下旬

演題申込および原稿締切 2 月下旬

プログラム編成会議 3 月上旬

入稿 4 月上旬

講演集発送 5 月下旬

ハ) 脂質生化学研究 Circular2024 の発行 1 月下旬

ニ) 会議

日本脂質生化学研究会総会 令和 6 年 6 月 6 日 (木)

第 1 回幹事会 令和 6 年 6 月 6 日 (木)

第 2 回幹事会 令和 6 年 12 月

(3) 第 66 回日本脂質生化学会の準備状況について、三浦 進司 先生から説明があり、優秀発表賞に関して議論がなされた。

(4) 学会運営費について議論がなされた。

(5) 次期役員について議論がなされた。

日本脂質生化学会
令和5年度仮決算報告及び令和6年度予算（案）

令和5年11月30日現在

収入の部	令和5年度				令和6年度
項 目	予 算	11/30現在	今後発生予定 (概算)	12/31	予 算
正会員会費	2,300,000	2,086,000	10,000	2,096,000	2,100,000
賛助会員会費	280,000	230,000	0	230,000	190,000
講演集売上	50,000	95,000	0	95,000	50,000
広告収入	100,000	183,500	0	183,500	100,000
寄付金	0	492,110	0	492,110	0
利子	20	17	0	17	20
雑収入	15,000	19,910	0	19,910	15,000
小計	2,745,020	3,106,537	10,000	3,116,537	2,455,020
前年度よりの繰越金	3,627,912	3,627,912		3,627,912	3,343,011
計	6,372,932	6,734,449		6,744,449	5,798,031

支出の部	令和5年度				令和6年度
項目	予 算	11/30現在	今後発生予定 (概算)	12/31	予 算
研究集会補助	900,000	900,000	0	900,000	900,000
会報製作費	220,000	189,145	0	189,145	200,000
講演集製作費	800,000	824,065	0	824,065	830,000
旅費	100,000	91,000	41,000	132,000	100,000
郵送・通信費	300,000	263,312	20,000	283,312	300,000
サーバー・ドメイン管理費	120,000	25,019	85,000	110,019	120,000
ホームページ制作費	0	0	0	0	0
事務用品費	100,000	103,400	0	103,400	100,000
会合費	50,000	9,189	20,000	29,189	30,000
謝金	0	0	0	0	0
総会経費	0	0	0	0	0
事務経費	150,000	150,000	0	150,000	150,000
事務委託費	700,000	610,308	70,000	680,308	700,000
雑費	0	0	0	0	0
小計	3,440,000	3,165,438	236,000	3,401,438	3,430,000
次年度への繰越金	2,932,932	3,569,011		3,343,011	2,368,031
計	6,372,932	6,734,449		6,744,449	5,798,031

日本脂質生化学会
令和5年度仮決算明細
(令和5年1月1日～令和5年11月30日)

＜収入の部＞

項 目	内 容		金 額
正会員会費			2,086,000
令和5年度会費	5,000×354名	(1,770,000)	
令和5年度学生会費	3,000×35名	(105,000)	
過年度会費	5,000×40名	(200,000)	
過年度学生会費	3,000×2名	(6,000)	
次年度会費	5,000×1名	(5,000)	
次年度学生会費	3,000×0名	(0)	
賛助会員会費	10社×23口分		230,000
講演集売上	5,000×19冊		95,000
広告収入	12社		183,500
寄付金 熊本大学（大会校）			492,110
利息			17
雑収入			19,910
著作料 医学中央雑誌		(10,120)	
サンメディア		(18,920)	
小 計			3,106,537
前年度繰越金			3,627,912
合 計			6,734,449

＜支出の部＞

項 目	内 容		金 額
研究集会補助	第65回日本脂質生化学会（熊本大学）		900,000
会報製作費			189,145
講演集製作費			824,065
旅費			91,000
郵送・通信費			263,312
会報、会費請求郵送料		(80,900)	
講演集発送費		(144,125)	
その他送料		(32,567)	
振込み手数料他		(5,720)	
サーバー・ドメイン費			25,019
ホームページ制作費			0
事務用品費	封筒		103,400
会合費			9,189
プログラム委員		(9,189)	
第2回幹事会		(0)	
事務経費			150,000
事務委託費			691,208
雑費			0
小 計			3,246,338
次年度繰越金			3,488,111
合 計			6,734,449

賛助会員

- (5 口) 小野薬品工業株式会社
 佐藤製薬株式会社
 ホロバイオ株式会社
- (3 口) 株式会社ナールスコーポレーション
- (2 口) 雪印メグミルク株式会社
- (1 口) 株式会社大塚製薬工場
 株式会社ダイセル
 備前化成株式会社
 株式会社極洋

(以上 9 社 2 4 口)

日本脂質生化学会 会則

第1条 名 称

本会を日本脂質生化学会(The Japanese Conference on the Biochemistry of Lipids, JCBL)と称する。

第2条 目 的

本会は脂質の領域における化学的、生化学的研究の発展と向上を図り、あわせて研究者相互の連絡および親睦を深めることを目的とする。

第3条 事 業

本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業をおこなう。

- (1) 研究集会の開催
- (2) その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 会 員

本会の会員には次の種類がある。

- (1) 正会員は、脂質の化学的、生化学的研究に従事し、本会で定めた会費を納入する者。
- (2) 学生会員は、大学院または大学等に在籍し、脂質の化学的、生化学的研究に関連する分野を専攻する者で、正会員 1 名の推薦をうけて本会に登録を行い、本会で定めた会費を納入する者。
- (3) 賛助会員は、本会の目的に賛同し、本会を維持することに協力し、本会で定めた会費を納入する者。
- (4) 名誉会員は、幹事会の推薦により、総会の承認で決定される。名誉会員の会費は免除される。

第5条 役 員、幹 事、名誉会長

- (1) 本会は、その運営のために、役員として会長1名、庶務幹事1名、会計幹事1名、会計監査1名をおき、役員会を構成する。
- (2) 本会の運営上の重要事項について役員会の諮問に応ずるものとして幹事をおく。
- (3) 役員および幹事は幹事会を構成し、会務の一切を処理する。幹事会は決定事項を総会に報告し、その承認を得るものとする。
- (4) 名誉会長をおくことができる。名誉会長・名誉会員は幹事会に出席して意見を述べるができる。
- (5) 会長、庶務幹事、会計幹事、会計監査の任期は2年とし、幹事の任期は4年とする、重任はさまたげない。

第6条 総 会

総会は、会長がこれを招集し、次の事項を審議し、決定または承認する。決定または承認は、総会出席者の半数以上の合意を必要とする。

- (1) 予算および決算に関する事項
- (2) 幹事会の提案事項
- (3) 幹事会の決定に関する承認事項
- (4) その他

第7条 経 理

本会を運営するために、次の如く経理をおこなう。

- (1) 本会の事業年度は、毎年1月1日より12月31日とし、予算および決算を会報に掲載する。
- (2) 経理は、会計監査によって監査される。
- (3) 当該年度の経理状況は、総会に報告され、その承認を得るものとする。
- (4) 本会の経費は、会費および寄附金による。

第8条 事 務 局

本会は会務に関する一切の事務をおこなうために事務局を置き、庶務幹事がこれを運営して、会員の便宜を供する。

本会の事務局は、〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル 9階 (株)春恒社内におく。

附則

- (1) 本会則は、総会の承認を経て変更することができる。
- (2) 本会の会費は、幹事会で決定し、総会の承認を得るものとする。

(平成14年6月14日改訂)

(平成17年6月 2日改訂)

(平成23年5月12日改訂)

学会事務の取り扱い内容と連絡先

日本脂質生化学会の事務局は、(株) 春恒社内に置き、以下の事務取り扱いを行なっております。

1. 入会・退会の受付
2. 年会費の請求および徴収
3. 所属・住所・氏名等の変更の受付
4. Circular および要旨集の発送とその未着クレーム等の受付

日本脂質生化学会事務局の連絡先

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9F

(株) 春恒社 学会事業部内

TEL : 03-5291-6231

FAX : 03-5291-2176

E-mail : JCBL@shunkosha.com

日本脂質生化学会の年会費は、正会員 5,000 円、学生会員 3,000 円です。入会ご希望の方は上記の日本脂質生化学会事務局までお問い合わせ下さい。

日本脂質生化学会 会長 梅田 眞郷



THE JAPANESE CONFERENCE ON THE BIOCHEMISTRY OF LIPIDS

c/o Shunkosha Co., Ltd.
Lamdax Building 9F
2-4-12 Ohkubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0072, Japan
JCBL@shunkosha.com
Tel: +81-3-5291-6231, Fax: +81-3-5291-2176

日本脂質生化学会事務局

〒169-0072
東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル
9F (株) 春恒社 学会事業部内
JCBL@shunkosha.com
Tel: +81-3-5291-6231, Fax: +81-3-5291-2176